

## デジタル化事業の始まり

岩手県立図書館には、所蔵する古文書・古地図・古記録等（以下、古文書等）をデジタル化して公開する場として、「イーハトーブ岩手電子図書館」と「デジタルライブラリーいわて」の2種類があります。

「イーハトーブ岩手電子図書館」は、平成9年(1997)から同12年(2000)にかけて実施された高度情報化推進事業(古文書等および石川啄木・宮沢賢治関係資料のデジタル化事業)によって構築・公開されたものです。当館で所蔵している古文書等の中でも重要度の高い貴重書に指定されている資料や、啄木・賢治の初版本などを収録しています。事業開始当時の館報(『としょかんいわて』1998年3月31日号)には、県立図書館所蔵の古文書等について“一般公開による劣化・消耗等を避けるために保存に主眼をおいており、県民の資料として活用されていないのが現状”であることから、特に歴史的価値の高いものをデジタル化し、“県民の学習、研究者の研究に積極的に活用出来るようにします”と、その目的を掲げています。実施にあたっては、歴史史料や啄木・賢治研究の専門家らによる委員会を立ち上げ、資料の選定や資料解説の作成を行いました。



### 残された課題

完成した「イーハトーブ岩手電子図書館」は、CD-ROMに収めて県内図書館等に配布したほか、図書館のウェブサイト上でも公開しました。

しかし、当時は今ほどインターネット回線が発達しておらず、大きなデータの読み込みには時間がかかったため、公開されている画像データはファイルサイズの小さい低解像度のものになっています。資料によっては文字が読めないものもあり、判読可能なレベルの高解像度画像を閲覧するためには、わざわざ岩手県立図書館まで出向いてCD-ROM版を利用する必要がありました。また、検索機能が実装されておらず、多くの課題を残すこととなりました。



## 資料紹介



もりおかはんりょうないず なんぶりょうじょうきょうず  
**盛岡藩領内図** (南部領貞享図)

[年代:江戸時代]

盛岡藩領全体の領内図。郡村名や村間の里数、街道、一里塚、山川など地理情報が豊富に書き込まれている。岩鷲山



(岩手山)部分には、「貞享三年春三月初ヨリ山焼煙見超テ年不消」とあり、噴煙が描かれている。元禄期(1688-1703)作成の国絵図を縮小し、簡素にした絵図と考えられる。

ないしりやく  
**内史略**

よこかわ りょうすけ  
**横川 良助**

[年代:江戸後期]



盛岡藩の歴史書。前編24冊・後編20冊。画像は貞享3年(1686)の岩手山噴火についての部分。噴火の様子や、鎮静のため岩手山に位階が与えられたことが記されている。



ほうかんるいじゅう  
**宝翰類聚**



寛保元年(1741)編、万延2年(1861)写

盛岡藩家臣の家等に伝わった古文書を集めてまとめた写本集。初代藩主信直、2代利直の時代の文書が中心。中には原文書が失われているものもあり、資料的価値が高い。画像は、九戸一揆が進行中だった、天正19年(1591)の南部信直書状写し。

きたかみがわひらたのこうろず  
**北上川帯之航路図**

[年代:江戸時代]

盛岡藩最大の河港・黒沢尻河岸から石巻までの北上川の航路を記した絵図。航路を朱の線、難所を渦巻きや岩で表し、難所の程度を、地名+「大難所」、地名+「難所」、地名の3段階に書き分けている。





## 資料紹介



もりおかじょうかす  
盛岡城下図



[年代:江戸後期 写]

盛岡城下の町割が詳細に描かれ、合計1441軒の藩士屋敷・町家等が記載されている。記載の屋敷主の名前から、正保2年(1645)頃の盛岡城下を描いた図の写しと考えられている。幕府に提出するため作成された正保城絵図の下絵図の一つか。

しんせいよちぜんず  
新製輿地全図



みつくりしょうご  
箕作省吾 弘化元年(1844)

水沢伊達家家臣・佐々木家に生まれ、洋学者・地理学者となった箕作省吾が編訳刊行した世界地図。1835年フランス製の図を底本に、最新情報を盛り込んで作成された。吉田松陰など幕末の知識人に大きな影響を与えたといわれている。



ゆうしゅうにちろく  
幽囚日録

なかごろう  
那珂梧楼

明治元~2年(1868~69)

那珂梧楼は、幕末の盛岡藩の儒学者。戊辰戦争(秋田戦争)後、藩の戦争指導者の一人として捕縛され、東京で謹慎させられた際の10か月間の日記。

はるしゅら  
春と修羅

宮沢賢治

大正13年(1924)

生前に刊行した唯一の詩集の初版本。



あこがれ

石川啄木

明治38年(1905)

19歳で刊行した処女詩集の初版本。





## 機能・操作性の向上

「イーハートブ岩手電子図書館」の不便を解消するために作られたのが「デジタルライブラリーいわて」です。平成22年度(2010)に(公財)図書館振興財団の助成を受けて基盤部分を整備し、翌23年(2011)の5月に公開されました。当館で使用している図書情報システムのWebOPAC(ウェブサイトから利用できる蔵書検索)機能を拡張し、資料検索機能とデジタル画像の表示機能を連携させています。キーワード検索だけでなく、当館独自の郷土和本分類を用いた分野ごとの一覧表示もできるようになり、利便性が向上しました。



「デジタルライブラリーいわて」の高精細画像ビューア  
「高田村絵図」(文政5年) 高田松原部分を拡大表示

平成23年度(2011)には、東日本大震災で沿岸部の地域資料の需要が高まったことを背景に、再度財団の助成を受け、江戸時代に作られた三陸沿岸等の古地図27点をデジタル化。また、大きいものでは7メートルを超えることもある古地図等大判資料の表示に対応するため、あらたに拡大縮小機能を強化した高精細画像ビューアを実装しました。

## コンテンツの充実を目指して

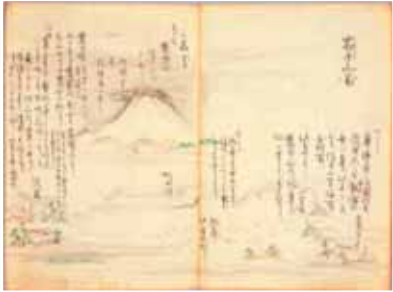
資料のデジタル化は、原資料へのアクセスを減らして資料の劣化を最小限にとどめるとともに、デジタルデータをネット上で提供することで、距離や時間の制約無く資料が利用できるようになるというメリットがあります。外出制限の続いたコロナ禍を経て、その需要はますます高まりました。

岩手県立図書館でも、コンテンツの充実を目指して、郷土資料を中心にデジタル化を進めているところです。令和5年度(2023)からは、従来の古文書等に加え、震災関連資料のデジタル化も始まっています。



## 資料紹介

### めいしよじゆんどうき 名処順道記



### しみず しゆうぜん 清水秋全 宝暦元年(1751)

盛岡藩士・清水秋全が、藩主・南部利視の命を受けて著したもの。盛岡藩領内の和歌に詠まれた名所や歌枕になった地などを図入りで紹介している。画像は岩手山の部分。

### ぶん[もん]ろういじ 聞老遺事

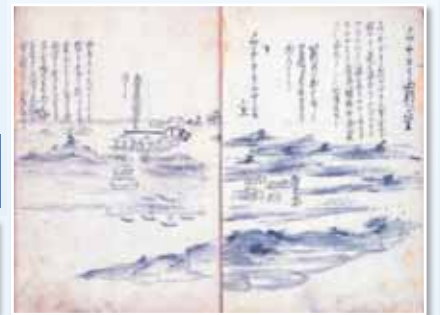


### うめない すけかず[のり] 梅内祐訓 文政5年(1822)

盛岡藩士・梅内祐訓が、南部家始祖から29代重信まで歴代の事跡を、『奥南旧指録』『奥南盛風記』等を引用、編纂した歴史書。著者による考証部分も貴重な記述となっている。



### まつまえはこだてみちのりき 松前箱館道法記



### 嘉永元年(1842) 写

ロシアの来航等を警戒した幕府の命で、盛岡藩は、寛政5年(1793)から幕末まで断続的に、蝦夷地(北海道)の警備にあたった。本資料には、野付(北海道野付郡別海町)から箱館まで東蝦夷地沿岸部の、会所・勤番所が置かれた地点の様子が描かれている。



### はこだてもりおかはんじんやす 箱館盛岡藩陣屋図



### 安政2年(1855)

安政2年(1855)からの盛岡藩の蝦夷地警備に関連して作成された図。「御役所」(幕府の箱館奉行所)の側に、「御陣屋」として、盛岡藩箱館元陣屋建設予定地が示されている。

### もりおかはんしよばんづけしゅう 盛岡藩諸番付集



相撲番付の体裁(木版縦一枚刷)にならい、色々な事物に階級をつけた一覧表を見立番付という。本資料は盛岡藩関係のさまざまな見立番付を集めたもの。画像は幕末の盛岡城下商人番付。(昭和12年複写刊行)





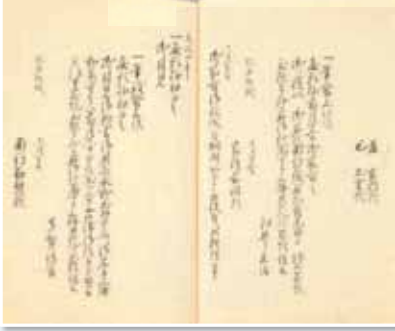
## 資料紹介



なんぶはんぶんせいさんてんぽうきゅうねんかんはんにつき  
**南部藩文政三天保九年間藩日記(花巻城代日誌)**

[年代:江戸後期]

盛岡藩の南の拠点・花巻城には城代が置かれ、和賀・稗貫郡内の代官所を統括した。本資料は、城代の事務で記録として保存すべき事柄を項目別に分類し、年代順に記載したもの。全26冊。各巻頭の記載年代は文政3~天保9年(1820~38)だが、実際には安政4年(1857)まで40年近い記録。



もりおかとうかいおおつち  
**盛岡東海大槌**  
おだいかんしよしはいのず  
**御代官所支配之図**

らんてん  
**佐々木藍田**

文久4年(1864)



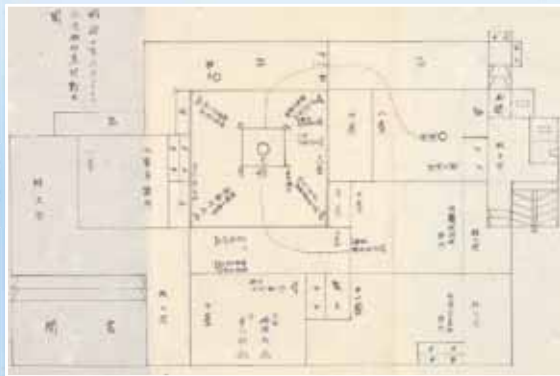
山田町の絵師・佐々木藍田が大槌通代官所の依頼で作成した図。海岸沿いの小さな朱色丸印は、台場(砲台)を示す。外国船への警戒から沿岸警備が強化された、幕末の様子がうかがえる。



さどおところおきまわりのず  
**明治二年六月二十三日佐渡御所置間割之図**



盛岡藩家老・檜山佐渡は、戊辰戦争(秋田戦争)後、盛岡藩敗戦の責を負って処刑された。本図は、明治2年(1869)に処刑が行われた、盛岡の報恩寺の部屋の詳細図。入室方向や遺体をどのように運んだか等が記されている。



さんへいいとおりかいはんせいせいぶんけんえず  
**三閉伊通海岸整正分間絵図 四**

[年代:江戸末期]

盛岡藩領東海岸の野田・宮古・大槌通(現久慈市~釜石市)の沿岸を正確に測量した(整正分間)絵図。画像は田野畑村、岩泉町、宮古市田老付近。全7枚で、当館(5枚)と、もりおか歴史文化館(2枚)所蔵。縮尺は壺寸(約3cm)で百間(約182m)。





## 活用例



令和5年(2023)11月開催の第109回  
全国図書館大会岩手大会の際、図書館グッズとして、デジ  
タル化資料を使用した、マスキングテープを作成しました。

### 使用した資料

なんぶはんたいみょうぎょうれつず  
南部藩大名行列図



江戸城に正月参賀する盛岡藩主の行列  
を描いた絵巻物。「御行列図巻」(もりおか  
歴史文化館所蔵)の写しと考えられている。

さんぶつごふしんもつ  
産物御不審物図



元文2年(1737)頃  
幕府の命令により書  
上げた盛岡藩領内産  
物のうち、形態不明の  
ものを図に表した画集。



## 岩手県指定文化財のデジタル化

当館所蔵『岩手県管轄地誌』は、令和5年  
(2023)11月、岩手県有形文化財に指定され  
ました。この資料は、同時期にデジタル化作業  
を進めており、翌令和6年(2024)からウェブ  
公開し、貴重な文化財をお手元の端末等でじ  
っくりご覧いただけるようになっています。デジタル  
化は、文化財の保護・活用にも大きな役割を果たしています。



いわてけんかんかつし  
岩手県管轄地誌



岩手県 編

明治9~18年(1876~85)



明治初期に岩手県が  
編纂した地誌。全131  
冊。県内各郡村の沿革・  
地勢・戸数・山川・寺社・  
物産など、当時の状況  
が事細かに記録されて  
いる。岩手県の成り立ち  
を知るとともに、江戸時  
代の村の様子を類推で  
きる貴重な史料。



村ごとに地図が付属

600点強(整理作業中  
も含む)の地図があり、そ  
の一部もデジタル化済